

# 議 論 アップ報酬進まぬ

【白老】胆振管内白老町議会(定数16)が、議員報酬引き上げの是非をめぐる対応に苦慮している。全国初の「通年議会」の導入などで、議員の拘束時間が大幅に増えたことから、町長の諮問機関も「議会活動への対価が必要」と、引き上げにお墨付きを与えた。しかし、町財政は「早期健全化団体」入りも懸念されるほどの厳しい状況。このため、議会自ら引き上げ案を切り出せず、結論を先送りしている。

(苫小牧報道部 阿部里子)

## 「通年議会」導入の白老町議会

「活動量も増えているのは、飴谷長蔵町長に対する。今の報酬では、次し、議員報酬の「引き世代を担う若手の立候補を促す」を明記した補は望めない」。3月 答申書を手渡した。

3日、町特別職報酬等 白老町議の報酬は、審議会の川田憲秀会長 月額20万7千円。同町



通年議会制の導入など一連の議会改革に伴い、議員の負担増が進む胆振管内白老町議会

## 1.5倍に 議員負担増も財政難

を含む人口2万人以上の道内11町の平均20万4千円(道町村議会議長会調べ)とほぼ同じも「報酬引き上げ」の額。2001年から据え置かれていたが、町員の負担増から、議員の財政再建のため、08

の町村議会の平均69・1日(08年)の2・6倍にもなる。玉虫色の決着から2年4回発行の町議会広報誌に委員会などの出席状況を公表するなどの活動の周知にも力を入れる。町議の1人は「地域の会合出席や質問の事前調査も必要で、ほぼ毎日が議員の仕事」と話す。

審議会は昨年2月に「『上げたい』とは言い出せない」との慎重論が多数を占めるのが現状だ。

一方、議会内には「報酬引き上げを町議の若返りのきっかけにすべきだ」との意見も根強く残る。町議16人のうち、10人がほかに仕事をもち、高齢化も進行。「このままでは、議員のなり手がいなくなる」との危機感がある。地方自治に詳しい浅野一弘札幌大教授(行政学)は、議員報酬の引き上げについて「質の高い議員活動であれば、住民は理解を示すはず。そのためにも、きめ細かな情報公開が欠かせない」と指摘する。

年度から報酬10%を自削減中だ。町議会は07年10月の前回改選時に、定数を4減する一方、議会改革に取り組み、08年6月に全国初の通年議会制度を採用した。招集手続きが不要で、議長は、議員報酬の判断でいつでも議会を再開できる。

09年の会議日数は183日に上り、改革着手前の05年の119日から1・5倍増。道内

度から報酬10%を自削減中だ。町議会は07年10月の前回改選時に、定数を4減する一方、議会改革に取り組み、08年6月に全国初の通年議会制度を採用した。招集手続きが不要で、議長は、議員報酬の判断でいつでも議会を再開できる。

09年の会議日数は183日に上り、改革着手前の05年の119日から1・5倍増。道内

